



不登校 ひきこもりの 背景とその後

つながる ひろがる 可能性

「思春期・青年期のころ
—スクールカウンセラーの経験を通じて—」

佐藤 睦子 SATO Mutsuko
京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 心理学科 准教授

「青年期のひきこもり
—理解と支援のヒント—」

河瀬 雅紀 KAWASE Masatoshi
京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 心理学科 教授

「不登校・ひきこもりの
地域支援の実際」

四方 美佳子 SHIKATA Mikako
心理学研究科修士 臨床心理士

各支援団体の情報ご案内も
予定しています

2018年 **5月27日**(日)
13:00~15:00 (12:30開場)

京都ノートルダム女子大学
NDホール 予約不要・入場無料



Kyoto Notre Dame University

不登校・ひきこもりの背景とその後

— つながる ひろがる 可能性 —



5月27日(日) 13:00~15:00



佐藤 睦子

SATO Mutsuko

京都ノートルダム女子大学
現代人間学部 心理学科 准教授

旧文部省が始めたスクールカウンセラー活用研究委託事業2年目より、スクールカウンセラーとして、大阪府・和歌山県の公立幼稚園から高等学校において10年以上活動しました。現在は、学校現場を退いていますが、この時期お会いしたクライアントさんが現在の自分の糧となっております。私の力不足のため、決して良いばかりの帰結とはなってきませんでしたけれども、子どもさんが不登校になった意味や、登校し始めた理由を保護者の方と一緒に考えてきたことは、共に意味のある経験であったと思っています。講演では、私が出会ったクライアントさんを通じて、思春期・青年期のころについて考えたいと思います。

PROFILE ●甲南大学人文科学研究科博士課程後期単位取得後退学。臨床心理士。大阪府スクールカウンセラーを経て、現在京都ノートルダム女子大学現代人間学部心理学科准教授。スクールカウンセリング、心理療法を専門とし、学校や病院での実践を通して、心理面接における治療者の在り方を研究している。 ●主な著書・論文は、『ユングの13人の弟子が今考えていること(共訳)』(ミネルヴァ書房)、『スクールカウンセラーが果たす役割—成長支持的アプローチの重要性を通じて—』(『京都ノートルダム女子大学研究紀要』第46号)等。



河瀬 雅紀

KAWASE Masatoshi

京都ノートルダム女子大学
現代人間学部 心理学科 教授

ひきこもる青年と関わるなかで、社会参加にそして自分に対して真剣に向き合う彼ら彼女らの思いをいつもひしひしと感じています。そんな彼らの思いを私たちがきちんと受けとめ一歩を踏み出す支援が出来るのか自問しています。思春期・青年期のひきこもりにはさまざまな要因が複雑に絡み合っています。単独では困難であっても、変化の時に向けて、関係者と力を合わせ準備をすることは重要です。講演では、ひきこもることの意味、そして家族や支援者の関わり方について、医療的な視点も入れながら共に考えていきたいと思っています。

PROFILE ●京都府立医科大学大学院修了、精神科医(医学博士)。京都府立医科大学精神医学教室・助教授を経て、現在京都ノートルダム女子大学現代人間学部心理学科教授。メールによるひきこもり相談や地域のひきこもり支援団体との連携などひきこもりに関する啓発と支援の実践をしている。また、がん患者・家族の心理的ケア・グリーフケアを専門とし、京都府自殺対策推進協議会・会長として自殺対策にも力を注いでいる。 ●主な著書は『うつ病 知る 治す 防ぐ(編集)』(金芳堂)、『がん患者 グループ療法の実践(編著)』(金芳堂)等。

四方 美佳子

SHIKATA Mikako

心理学研究科修了生
臨床心理士

不登校・ひきこもりの支援では、学校や社会で傷つき、失われた“その人らしさ”を取り戻すお手伝いを中心としています。それは学校復帰、就労、仲間との交流など、形はさまざまです。一度は離れた社会に再び踏み出して行けるようになるまでには、葛藤や不安などの気持ちの揺れ動きが多くあります。また、“仲間とうまく馴染めない”“やりたいことが分からない”など現実的な壁にぶつかることもあります。当事者や家族と一緒に悩み、考え、模索すること、さらに、医療や福祉関係機関との連携について、事例を通してお伝えします。

PROFILE ●2012年3月、京都ノートルダム女子大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻修了。臨床心理士。現在、特定非営利活動法人恒河沙にて、不登校の児童・生徒やひきこもり状態にある方の支援に携わる。

現代人間学部
心理学科

公認心理師 (2018年4月より) カリキュラムがスタートしました!

2018年4月から、心理学科および心理学研究科での養成が始まりました。公認心理師は、保健医療、福祉、教育などの分野で、心理的支援の必要な方やその家族・関係者に心理的支援を行います。臨床心理士など従来からの民間資格に加えて国家資格ができたことで、職域の拡大やより安定した就労が期待されます。

【ノートルダムの心理で公認心理師になることの魅力!】

- ①18年の心理学専門教育の歴史
- ②心理の仕事について、現場見学や体験を積んでからの進路選択
- ③学びのパートナー(不登校児サポート事業)や府立医大病院での小児医療ボランティアなど心理的支援に直結する体験型プログラムが豊富
- ④大学院への一貫教育と学内からの特別推薦制度

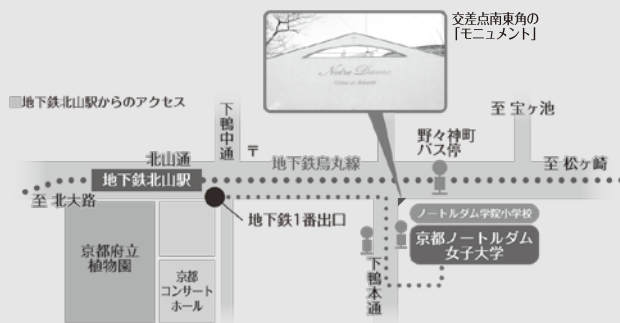


心理カウンセリングコース

不登校、ひきこもり、犯罪など心の問題を理解し対人援助の技術を身につけます。心理専門職をめざしての大学院進学、対人援助技術を生かしての就職と多彩なキャリア。

社会・ビジネス心理コース

心と行動について情報収集・データ分析力、プレゼンテーション力を身につけて、社会やビジネスに生かします。2017年度生の就職率は100%!



問合せ先/ 京都ノートルダム女子大学 研究・情報推進課
TEL.075-706-3789 FAX.075-706-3793
E-mail:kenkyu@notredame.ac.jp